No.739「株」

「人間の悲惨さは永遠に続く」と、ゴッホは言い残して死んで行った。

そう確かに、人生は悲しみと虚しさと苦しみに充ちて、過酷だ。望んだことは何一つとして叶わない。誰も本当の自分を分かってはくれない。私の存在も人生も無意味なのだ。この人生は生きる価値するのかと、絶望の淵に閉じ込められて自分の人生を呪ってしまう。

僕はずっとずっと若い頃からこのような思いに支配されて彷徨って来たが、近年、それは大いなる過ちなのではないかと考えるようになった。

僕たち命あるものはすべて、「より高く、より広く、より深く生きよ」との生命の意志に働き動かされて、今ある自分自身の存在が意味あることを願い求めている。このように過酷で悲惨な過去だったのだとしても、どんなに傷つけられて来たのだとしても、また今、どんなに苦悩で理不尽な境遇に置かれているのだとしても、それでも僕たちの心の最も深いところにある意志は僕たちを促し命じ続けているのだ。

何があったのだとしても、それでも僕たちは、悪魔の囁く軽薄な自尊心に欺かれることなく、その命じるところに素直に謙虚に頭を下げて従わなければならないのだと考えている。そうすることのみが僕たちの存在と人生に本当の意味を齎してくれるのだと。

前壽則

玉村咏 前壽則

HISANORI MAE

EI TAMAMURA

二人展

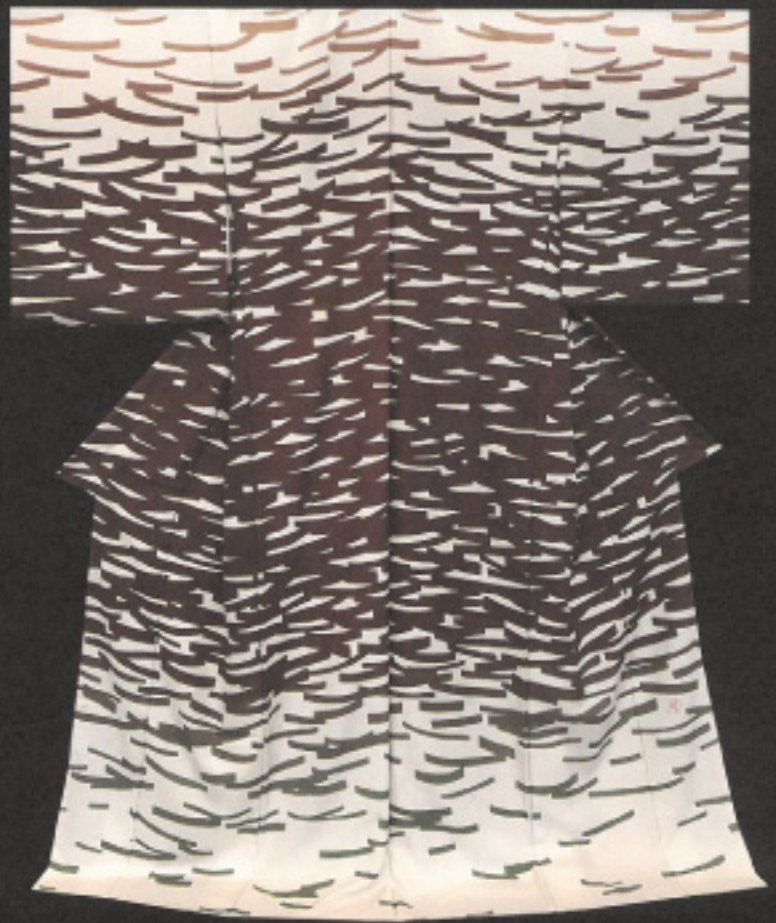
二〇一九年
九月七日(土)～十六日(月・祝)
九時～十七時十五分
九月九日(月)休館

後援
福井新聞社・FBC
福井テレビ

入場無料

福井市美術館
福井市下馬3-1111
Tel.0776・33・2990
http://www.kcif.or.jp/

朱流



染色に出逢えて五十年近くが過ぎる。

私の創った色が糊にゆっくり静かに染み込んでいく…

良い発色をするようにと願い祈るような気持ちがここまで続けさせてくれた。

染めの表現とは、決して私の感性や技術だけではなく、染められたがっている糊の心情を汲み取りながら一緒に歩むことだと気付かせてくれた。

自分にしか表せない色のハーモニーが糊の繊維一本一本の奥の奥まで深く染まり輝くこと。

この出逢いに立ち会うことが生涯の仕事になった。

玉村咏

前 壽則（まえ・ひさのり）
1952年1月1日　福井県武生市生まれ。
「人生とは何か、人間如何に生きるべきか」を問い続けること、そして思い考え感じた、それら名状し難い霊魂をキャンバス上に表すことが僕の生涯をかけた仕事である。表現方法としては、色は油の材料である油絵具に金箔や鼠墨、和紙、膠など日本の伝統的素材を加えて、これまでにない新しい世界観を表そうと考えている。
わび、さび、幽玄など日本文化の最深奥に流れている概念があるが、そういう概念を介さずに直接心を打ち貫く切実さを描きたい。ものの持つ本来の意思を。」
http://futan.net/

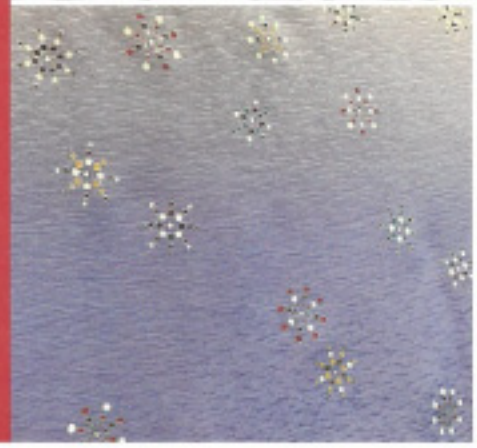
油彩画 × 染色

HISANORI MAE × EI TAMAMURA

全く異なる表現の出逢い

後援
福井新聞社・FBC
福井テレビ

入場無料

福井市美術館
福井市下馬3-1111
Tel.0776・33・2990
http://www.kcif.or.jp/

玉村 咏（たまむら・えい）　1947年福井市生まれ。
染色を独学、1983年京都西陣にて染色工房「アトリエ炊庵」設立。京染の伝統をうけつぎながら"そめ"の新しい表現の可能性を目指しつつ創作にあたる。きもの等の装飾以外に、タペストリー、インテリア、屏風、ファイバーアート等の造形作品を制作、オリジナルな作品づくりのために発想、デザインから最終工程まで10余りに分かれる工程を全てアトリエ内で一貫制作する。
www.eitamamura.com